

会議要録

会議の名称	平成27年度 第2回和光市文化財保護委員会
日時	平成27年8月5日(水) 14:00~15:30
場所	和光市役所 3階 庁議室
出席者 ※敬称略	【文化財保護委員】10名の委員のうち9名が出席 田中 明、副島元子、矢崎康彦、小田部玲子、森 朋久、鈴木敏弘、大平秀和、 並木実、竹内綾子 ※欠席：内田はま子 【事務局】 教育長 大久保昭男、 教育部長 上篠乙夫、 生涯学習課次長兼生涯学習課長 富岡敏光、 生涯学習課副主幹兼文化財保護担当統括主査 鈴木一郎、 文化財保 護担当 岸 勝己・中岡貴裕
傍聴者	1名

1 開会

2 委嘱式

大久保教育長より各委員に委嘱書を交付。

3 教育長あいさつ

本日は平成27年度第2回文化財保護委員会ということで、お集まりいただきありがとうございます。ただいま委嘱書を交付させていただきました。2年間、どうぞよろしく願いたいいたします。

本年度は市制施行45周年の記念ということで、市長から何か記念になるような事業はできないかということで、教育委員会では日頃から交流のある防災協定を結んでいる市である佐久市、那須烏山市、十日町市をはじめ、各自治体から文化財をお借りして展示会を企画しています。いずれもすばらしい文化財を所有しています。自分も各自治体に借用依頼等をお願いしてきました。十日町市に火焰型土器は2020年の東京オリンピックの聖火台にならないかということで、新潟県では色々な自治体が協力して運動されています。また、佐久市、那須烏山市にもたくさんの文化財があります。当市には残念ながら文化財指定されている文化財は少ないのですが、この事業を通じて文化財についての理解を深めていただこうと考えています。また、埼玉県内で協定を結んでいるところからも借用する予定でいます。ぜひ文化財保護委員各位には展示会に当たりましてはご助言ご支援を賜れば幸いです。この後、事務局より文化財保護委員会と担当の役割等の説明がありますのでよろしく願います。2年間の任期中、どうぞよろしく願いたいいたします。

○事務局より説明・報告

1. 市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開

について説明。

2. 配布資料について説明。
3. 内田委員からは都合により欠席の事前連絡をいただいている旨を報告。

4 自己紹介

職員及び各委員による自己紹介。

5 文化財保護委員会と生涯学習課文化財保護担当の役割

生涯学習課長より説明。

6 協議・報告

(1) 委員長・副委員長選出

○事務局

和光市文化財保護委員会規則第5条の規定に基づき、委員長と副委員長を選出していただきたい。委員長には会議を主宰していただき、副委員長にはそれを補佐していただきたい。どなたか立候補される方はいらっしゃるか。

→【委員一同】立候補なし。

○事務局

いらっしゃらないようであれば、どなたかご推薦いただける方はいらっしゃるか。

○小田部委員

田中明委員は地元の方であり、和光市の文化財については知り尽くしている。今までも見事に文化財保護委員長として会を運営してきていただいているので、今回もお願いしたいと思うがいかがか。

○事務局

ただいま小田部委員から田中明委員をご推薦いただいたが、ご意見等はあるか。

→【委員一同】異議なし。

→田中委員を委員長とする。

○事務局

では、副委員長に立候補される方はいらっしゃるか。

→【委員一同】立候補なし。

○事務局

では、副委員長の選出は委員長一任としてよろしいか。

→【委員一同】異議なし。

○田中委員長

和光市の歴史研究者として多方面にわたって活躍いただいている副島委員にお願いしたいと思うがいかがか。

→【委員一同】異議なし。

→副島委員を副委員長とする。

○事務局

これ以後の議事については、田中委員長にお願いしたい。

(2) 平成 27 年度事業計画及び経過報告

○委員長

議題 (2) 平成 27 年度事業計画及び計画報告について、事務局より説明願いたい。

○事務局

資料を基に説明。

○委員長

今の説明について、ご意見、ご質問等があればお受けしたい。

→【委員一同】特になし。

(3) 「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物」の文化財指定について

○委員長

議案について、事務局から説明願いたい。

○事務局

事務局では鈴木敏弘委員と打ち合わせをしている段階である。鈴木委員から説明をお願いしたい。

○鈴木委員

本日の会議のために資料を作成したのでご覧いただきたい。

→当日配布資料を元に説明。

配布資料の中で、赤く色を塗った住居跡から出土した遺物が候補だろうと考えている。個々の住居跡は同時に存在していたわけではない。午王山では北関東系の土器が出土する住居跡が比較的古いことはわかってきている。

市の指定としてふさわしいものは何かという話になると、銅鐸形土製品をはじめとした珍しい資料が候補になるだろう。他市の博物館等にも貸出されている。

出土遺物の中で、一番選択が難しいものが土器である。残りの良いものを選んでいけば

良いと考えていたが、最近住居の中で出土した遺物を一括で指定する事例も多くなっている。午王山遺跡の特徴で言えば、他地域との関わりを示す土器が出土していることも考慮しなければならないだろう。そうしたことから、土器の指定にあたっては胎土分析等の必要性も考えている。また、熱心に弥生土器を研究している柿沼氏に協力を求めており、ご理解いただいている。できれば事務局からも柿沼氏に連絡いただければと思う。

○田中委員長

鈴木委員の途中経過報告について、確認事項等はあるか。

○副島副委員長

指定する資料はかなりしぼるということか。

○鈴木委員

胎土分析によって、各地の土器との比較ができる場合がある。それによって、移動してきた土器なのか、地元でつくられた土器なのかがわかる可能性がある。

道路の部分なども指定して、史跡面積を広げることなども求めているが、今回は出土品ということなので、しぼって考えている。

○田中委員長

その他、ご意見はあるか。

→【委員一同】特になし。

大変な仕事であるが、鈴木委員には引続きお願いしたい。

(4) 意見交換

○田中委員長

今回から新たに委員に委嘱された方もいるので、各委員に近況等を含めお話いただければと思う。

○矢崎委員

去年は白子小学校の140周年ということで、色々関わらせてもらった。白子小学校には昔の資料が残っている。貴重なものも残っているので、そういうものをきちんと台帳整理などして、デジタルミュージアムに加えていく必要があるかなと考えている。

○小田部委員

自分は樹木医という立場で保護委員に入っている。現在指定されている文化財で唯一自分の専門領域にあるのが長照寺の大いちょうである。かつて鎌倉の大いちょうが倒れたということがあり、長照寺のいちょうも大丈夫なのかという話が出た頃に委員となった。その際、樹木診断をしたところ、いちょうの内部が空洞化していることが明らかとなった。しかし、それにしては元気であり、枝が枯れていくようでもない。冬に葉が落ちた頃に見

てみると、木の真ん中あたりが細い樹形であるように見られる。その辺りが少し心配ではあるが、特別な力が加わらない限り元気な姿でいると思う。しかし、近年は気象が異常なので、ねじったような風の力が加わったら、細い部分で折れてしまうこともありうる。しかし、それはどうしようもないことで、周りを支えることはできないし、今のところする必要も無い。本当に見守るしかない状況ではないかなと思う。

意見が分かれるのだが、枝を切らないで葉をいっぱいにして樹皮を厚くするなどの方法もあるが、それでかえって上のほうが重くなってしまふ恐れもある。

いちょうをずっと見守っている長照寺が剪定を依頼している植木屋さんがいるので、その方はこれまでの経験でうまく選定してくれているのだろうと思う。

一つお願いがあるのが、指定文化財の案内看板の色が薄くなってきているので、パトロールの際に薄くなってしまっているものは取り替えるなどの対応をしていただければと思う。

最近では、古い巨樹で寿命が尽きそうな場合は後継樹を育てるという考え方がある。自分も大いちょうが倒れた騒動で長照寺のいちょうの診断をした際に、枝をもらってきいてつかのポットで後継樹を育てている。このプランターを長照寺さんにも預けた方が良かったかなと思っている。他にもどなたか育てていただける方がいれば教えていただきたい。

○森委員

自分が委員のきっかけとなったのは平成 21 年度に行った文化財保存庫の調査・整理である。それ以来、和光市の史料を直接は意見する機会は無かったが、市で管理されていることと思う。しかし、現状は保存はされていても閲覧することが難しいと思う。後世の歴史遺産を残すことも重要だが、公開も重要であると考えている。公開となると、その場所が必要となる。できればせっきくの史料を閲覧できるスペースを確保していただければと思う。その際に、かつて和光市史を編纂した際に使用した史料と対応させることもしていければと思う。そのスペース確保については、今後も事務局に働きかけていきたい。

○鈴木委員

やはりデジタルミュージアムだけではなく、常設展示施設が必要である。午王山の資料も重要だが、大規模な区画整理によって大変貴重な資料が発掘されている。もちろん常設展示ができて、資料の公開が可能という形となると、言うのは簡単だが難しい面もある。

自分の後輩たちも、様々な自治体に勤めているが、少子高齢等で介護等に人手が必要となっている。かつて国は博物館建設に補助金を交付してきたが、その頃和光市は博物館をつくらなかった。デジタル化して現物を倉庫に置いておくだけではなく、やはり実物を見る機会を保障する必要がある。

市の全体的な財政等については詳しくないが、身の丈にあった資料館が必要ではないかと思う。考古資料の場合は量も増える。周辺の郷土資料館等を見れば和光市に資料館が無いのが不思議である。和光市はそうした面でスタートが遅れたのかなと思う。

○並木委員

自分は和光市白子生まれで和光市育ちである。文化財に関しては、定年してから興味を持って調べはじめた。何かお役に立てればと思っている。個人的な話になるが、わからないことを調べたいと思っている。和光市の白子の年貢はどこに納められたのか、下新倉にかつて長泉酒蔵より大きい酒蔵があったということも聞いたが、具体的にどういうものだったのか。時間をかけて色々調べていきたいと思っている。

○大平委員

自分は歴史的建造物の調査研究を生業としている。和光市では、十数年前に歴史的建造物の調査をさせてもらった。その中の一つとして、新倉ふるさと民家園として開設した旧富岡家がある。十年ほど部材として保管されていたものを調査し、これは明らかに古いものであると判明した。

建造物は使ってこそ意味もあるし保存されていく。しかし、適切な維持管理をしていかないとだめになっていってしまう。私がここに呼ばれたのも、そうした建物の維持管理の面があるのかなと思っている。保護委員の皆さんと一緒にがんばっていきたい。

○竹内委員

今お話のあった新倉ふるさと民家園で管理を行っている。民家園にいと、通りすがりで立ち入ってくれる人が多い。「どこから来ましたか？」と必ず聞くようにしているが、鹿児島であったり静岡であったりと色々な答えがある。あまり案内看板のようなものが無いが、ホテルとかで見所を聞くと民家園を案内してくれるようで、遠方の方に立寄ってもらっている。また、外国の人がたくさん来てくれる。

管理運営をしている立場としては、駅に案内看板をつけてもらったりするなど、もっとPRしていくことをお願いしたい。

○副島副委員長

和光市にはたくさんのお寺がある。夕暮れに鐘の音が鳴り響くようなまちであつたらいいなと思っていた。2～3日前に、ふと鐘が鳴っていることに気づいた。それを聞いてとてもうれしく思った。

地福寺の梵鐘は「平和の鐘」といわれている。寛文年間にあつたものが壊れてしまい、延享年間につくったという銘のある鐘が太平洋戦争で供出されてしまった。しばらく鐘が無い状態だったのだが、昭和29年にみんなの力で金を集めて鐘をつくったということが書いてある。金石分の調査をしているときに329名の名前を確認した。こうしたものを含め、私たちが見逃している文化財もまだまだ多いと思う。諮問を受けるだけでなく、色々提案もしていきたいと思う。

○田中委員長

市内の色々な資料を保護していくため、文化財保護委員がお住まいの地域で、「あそここういう資料がある」というようなものがあれば、保護委員会の場で意見交換していきたいと思う。指定することを投げかけていくのも我々の役割だろう。委員会の中で情報を共

有していきたいと思う。残せるもの、残していかなければならないものというものを考えていかなければならない。

鈴木委員に質問がある。和光市の高台にはかつて集落があったと思うが、和光市は昔ゴボウや長いにんじんを作っていた。そのときにマンノウやスコップで掘り下げてそうしたものをつくっていた。そういう行為によって土器や遺跡が破壊されたという可能性もあるのか。

○鈴木委員

遺跡によって違うが、表面の黒色土の厚さが薄い場合は痛む可能性がある。我々が発掘する遺構も、本来であればもっと深かったはずのものが、耕作によって表面が削られたことによって深い部分のみが残っているという場合も多い。農具の機械化によって、その影響はより大きくなった。

やはり作物によっては遺跡が傷む可能性はある。午王山でも環濠の部分はゴボウが2mくらいできたという話も聞いたことがある。

○田中委員長

先ほどから話が出ているが、映像等ではなく、できれば実物を肌で感じる機会が必要であろう。教育長の見解はいかがか。

○大久保教育長

教育委員会では午王山を歴史公園等としていきたいという考えはある。資料館も必要であると考えているが、市民の方々からこうしたことに関する大きな声のうねりがほしいところである。和光市に新しくお住まいの方々も多い地域である。この和光市という地域をどう考えるかということも含めて、教育委員会としても文化財や歴史に関する意識を啓発していかなければならないと考えている。今年度の展示もそうした啓発の意味を含むものである。

○田中委員長

住んでいる皆さんに直接関係があるものについては比較的賛同が得られやすいのだろう。ただし、文化財を保管する博物館やミュージアムをつくるというと、そういったものに興味がある方は賛成していただけるだろうが、そういう方が何パーセントかといわれれば厳しい結果となるかもしれない。廃校のようなものがあれば比較的安価で整備できるかもしれないが、和光市ではそれは難しいだろう。

○鈴木委員

博物館はつくったのはいいが、それを維持・継続していくというのは難しいものもあるのだろう。しかし、いつでも実物に触れられる機会があれば、そういう気持ちは醸成されていく。考古学の立場からすればぜひ博物館はほしいが、予算等行政全般として長期的な目で考えるとどうなのかと思う。

○大久保教育長

博物館とまでは言わなくても、資料館程度でよいのではないか。

○鈴木委員

やはりハコモノと考えられてしまうので、人口規模や自治体の規模を踏まえて、維持していくことができるものである必要がある。

○田中委員長

各委員から様々な意見を頂戴した。事務局の方で検討できるものは検討していただきたい。

7 その他

○田中委員長

その他事務局から何かあればお受けしたい。

○事務局

すでに和光市遺跡調査会から通知されているとおり、文化財保護委員各位に理事を委嘱していた同調査会については、全ての業務を終了し、平成27年6月30日をもって解散したので報告する。

8 閉会